

3者が協力してつくるバス運営



▲市内のバス路線は、民間が経営する4路線と市の自主運行バスの20路線、計24路線

「市地域公共交通計画」は、明知鉄道沿線地域公共交通総合連携計画の下の計画として、バス交通の在り方を定めるものです。市では昨年度、「市地域公共交通計画を考える専門部会」を設置。2年間にわたり各地区の代表者を中心に地域で検討を進めました。部会では「地域の交通課題に対して、地域の力・資源を活かし、地域と市と交通事業者が協力して、創り・守り・育てる」を基本目標とした計画(案)を策定しました。

ここでは、計画(案)の概要をお知らせし、皆さんからの意見を募集します。

現状と課題を整理

専門部会では、これまでの検討経緯を踏まえ、バスを中心とした公共交通の課題を整理しました。

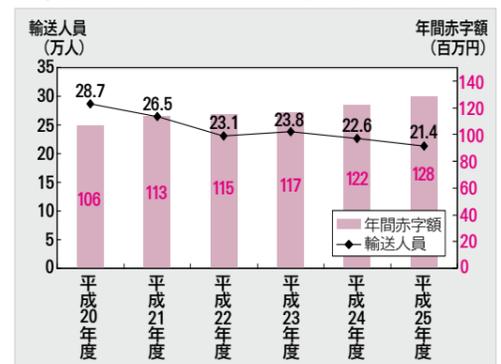
【現状】

市内には、バス事業者による4営業路線と、市の自主運行バスによる20路線が運行しています。本年度(平成24年10月～平成25年9月)の年間輸送人員は、21万4000人で、年間の赤字額は、1億2800万円にも上る見込みです。赤字分は、市が補てんしていますが、その額は、年々増加しつつあります(下表を参照)。

【課題】

- ① バスの利用促進と運行費用の抑制
利用者の減少に伴う運行費用の増大は、最大の課題
- ・「地域移送サービス」が展開されるなど、現在のバス路線では満たし切れていない需要があると考えられ、さらなる費用増大が避けられないのが実情
- ② 地域・路線ごとの輸送効率の差と地域間格差への対応
・バス利用者一人当たりの経費が数百円(約5000円)まで幅が広く、居住地域での格差がある
- ・過疎地域と市街地を単純比較する

■市自主運行バスの年間赤字額と輸送人員



のは困難。地域の「頑張り」で、その格差を埋める仕組みが求められる

③ 類似輸送サービスを活用していく必要性

- ・地域移送サービスは、地域の需要への柔軟な対応や、地域づくりへの寄与、経費が安いことなどから拡大が期待されるが、運営の資金や基盤が弱く、持続性に課題がある
- ・市直営のスクールバスの運転手確保が課題となっている

移送サービスの持続や発展に向けた支援を進めます。

- ・上矢作病院の病院バスの利用促進と、新恵那病院への最適な移動手段の確保が課題となっている
- ④ 地域と交通事業者、市の3者の役割分担の必要性
- ・3者が課題を共有し、地域の交通課題を協力して解決することが重要

四つの基本方針を提案

- ① 「自主運行バスの運営方針」の順守に向けたルールを作ります。
・路線を維持していくため、路線の企画や運営方法を地域に任せます。「利用者の減少に伴う運行費用の増大」など、課題のある路線は、「減便、隔日運行」か、「地域で自由に路線を設計」するのかが地域に選択していただきます。
- ② 地域の力を生かすことができる「地域路線」の運営をします。
・地域のことは地域の方が一番よく知っているからこそ、地域の方が中心となり、公共交通需要への迅速な対応、新たな交流の場としての活用、バスの利用促進を地域で運営できるよう、市と交通事業者が支援する仕組みを整えます。
- ③ 地域の資源(多様な輸送サービス)の活用を図ります。
・現在、地域で行われているか、行う予定のある移送サービスについては、有償化などを念頭に、持続可能な組織体制ができるよう促します。
- ④ 地域の取り組みに、市から積極的な支援を行います。
・「地域検討会の運営支援」、「地域による利用促進活動の支援」、「地域

① 「自主運行バスの運営方針」の順守に向けたルールを作ります。
・路線を維持していくため、路線の企画や運営方法を地域に任せます。「利用者の減少に伴う運行費用の増大」など、課題のある路線は、「減便、隔日運行」か、「地域で自由に路線を設計」するのかが地域に選択していただきます。

② 地域の力を生かすことができる「地域路線」の運営をします。
・地域のことは地域の方が一番よく知っているからこそ、地域の方が中心となり、公共交通需要への迅速な対応、新たな交流の場としての活用、バスの利用促進を地域で運営できるよう、市と交通事業者が支援する仕組みを整えます。

③ 地域の資源(多様な輸送サービス)の活用を図ります。
・現在、地域で行われているか、行う予定のある移送サービスについては、有償化などを念頭に、持続可能な組織体制ができるよう促します。

④ 地域の取り組みに、市から積極的な支援を行います。
・「地域検討会の運営支援」、「地域による利用促進活動の支援」、「地域

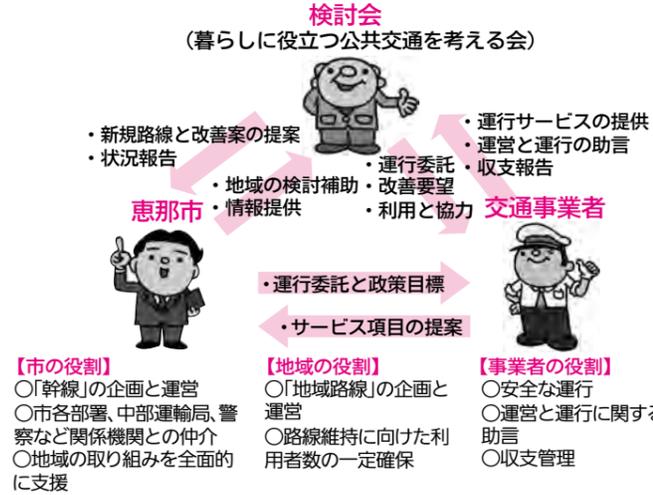
① 「自主運行バスの運営方針」の順守に向けたルールを作ります。
・路線を維持していくため、路線の企画や運営方法を地域に任せます。「利用者の減少に伴う運行費用の増大」など、課題のある路線は、「減便、隔日運行」か、「地域で自由に路線を設計」するのかが地域に選択していただきます。

② 地域の力を生かすことができる「地域路線」の運営をします。
・地域のことは地域の方が一番よく知っているからこそ、地域の方が中心となり、公共交通需要への迅速な対応、新たな交流の場としての活用、バスの利用促進を地域で運営できるよう、市と交通事業者が支援する仕組みを整えます。

③ 地域の資源(多様な輸送サービス)の活用を図ります。
・現在、地域で行われているか、行う予定のある移送サービスについては、有償化などを念頭に、持続可能な組織体制ができるよう促します。

④ 地域の取り組みに、市から積極的な支援を行います。
・「地域検討会の運営支援」、「地域による利用促進活動の支援」、「地域

地域によるバス運営



◆各地域の基本方針

各地域では、皆さんと一緒にそれぞれ地域に適した大まかな方針を整えました。今後も、さらに具体的な改善などを図ります。

【大井、長島、三郷、岩村、山岡地域】 現状路線を基本として、改善と利用促進を図ります。

【東野地域】 小野川線を一旦「白紙」とし、^{*1}デマンド型の導入も含めた抜本的な見直しを図ります。

【武並地域】 現状路線を基本として、特定の地域内でのデマンド方式を考慮しつつ、改善と利用促進を図ります。

【笠置地域】 幹線への乗り継ぎを前提とすることで増便を図り、利便性を高めます。

【中野方地域】 中野方線の本数を維持し、一層の改善と利用促進を図ります。

【飯地地域】 飯地線の改善や地域資源の活用で、利用促進を図ります。

【明智地域】 小学校の統合に伴う児童の移動手段の確保を優先に、改善と利用促進を図ります。

【串原地域】 生き生き線を「白紙」とし、以前の「生き生きワゴン」のような運行を目指します。^{*2}

【上矢作地域】 上矢作線を生かしつつ、不足部分を地域資源で代用するような体系に転換します。

計画案に意見を

市では、市民の皆さんの意見を反映させるため、市地域公共交通計画(案)への意見を募集します。

この計画(案)は、商工観光課や市情報公開コーナー(本庁舎3階)、各振興事務所、市中央図書館、市ウェブサイト(<http://www.city.ena.lg.jp/>)で閲覧することができます。閲覧期間は、意見の募集期間と同じです。

- 募集期間 1月20日(月)～2月10日(月)
- 提出方法 本紙(1月1日号など)に折り込んである広報直通便やファクス、電子メールなどで、①住所②氏名③連絡先(電話番号)一を明記して意見をお寄せください。
- ※見出しは、他の意見などと区別するため「商工観光課」などとしてください
- 申・問 商工観光課 ☎26-2111(内線522)、☎26-2861、✉shoukoukankou@city.ena.lg.jp

※1 デマンド型=利用者の要望に応じて、運行ルートや時間、乗降場所などを対応させるバスの仕組み
※2 生き生きワゴン=希望の場所での乗降が可能なワゴン車での地域移送サービス